



ぶどうの枝

2016年
秋号

天が地よりも高いように…（1）

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

今回より、私の牧師としてのドラマ（体験談）をお話させていただきます。その日、私は三育学院カレッジ神学科の生徒でした。卒業は1982年3月の予定でしたが、1981年に牧師採用面接を経て、教団本部からの牧師インターン採用通知を頂戴し、1981年8月より始まる牧師生活に備えていました。

ところで、私が三育学院入学時に、当時お世話になっていた牧師から「磯部君、君が牧師になるのだったら学院の在学中に妻をもらいなさい」というアドバイスを受けました（この牧師さん自身がそのような経験の持ち主だった…）。牧師さんの言葉は重く、その気になって三育在学時代に、写真つきの学生名簿（当時「ポスト」と呼ばれていた）を手に取り、自分に相応しい人がこの中にいるかも知れないと、しばしば眺めていたものです。

確かに、三育学院内には素敵な女性はいっぱいいました。しかしだからといって、牧師を目指している者と共になっていただけの人がいるとは限りません。結論を申し上げますと、卒業するまでに相応しい助け手はおらず、2ヵ年半（3年編入でしたので）の学業を経て独り身で牧師インターンとなりました。その時は、一つの覚悟を持っていました。それはパウロのように一生独身でも構わないという半ば悲壯的なものでしたが…。

私の祈りは、「相応しい伴侶が与えられるように」から、「相応しい任地が与えられること」に変わりました。ただ一つだけ行きたくない任地がありました。

当時、札幌、仙台、東京中央、名古屋、

広島、那覇がインターン牧師の行き場でした。その中で「願わくは名古屋教会だけは避けたいのです」という思いで祈っていました（今その理由を書く紙面はありませんが…）。ところが主の声は何と、「名古屋へ行け」でした。ですが、この名古屋で私は今の家内の（佐織）と出会ったのです。



しかも名古屋の滞在期間はわずか8ヶ月で婚約に至りました。名古屋教会を去るとき、「磯部先生は、何しに名古屋教会へ来たの」と冷やかされたこと、また一姉妹が歓送会で「さ～わぐ磯部の松原に～♪」という唱歌を奏でてくださったことなどは、今でも忘れがたき名古屋教会での良き思い出の一つになっています。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ書55:8, 9節）

次回は、仙台教会インターン時代を紹介しましょう。

神様からいただいたお恵み

千葉キリスト教会 渡邊 睦子

私はバプテスマを去年の11月に受けました。2回目のバプテスマでした。1回目は20歳の時で、その時は自分の意志ではなく、母が喜ぶからと、母のために洗礼を受けた気が致します。子供の頃、母との会話は殆どが聖書に基づくものでした。再臨の話だとか、よみがえりの話だとか、「また」と言う感じで少しうんざりしていました。それにも拘わらず、自分が苦しい時とか辛い時とか、痛みが強かった時など、歯の痛みなど強烈ですので、そういう時は神様どうぞ癒して下さいと、母の祈りの真似をして祈っていましたけれども、それらが過ぎ去ってしまうと感謝の祈りを捧げることを忘れているような有様でした。

それで長い間教会から離れていたのですが、体操教室で根本さんや井本さんと出会いまして、菜食教室を紹介して頂き教会に出入りすることが出来るようになりました。礼拝に出席した時に本当に心から嬉しいなと思いました。菜食料理をはじめ、コンサートだとかサンセットバイブルカフェなどにも参加させて頂きまして、皆様の温かい眼差しやお心に触れて、益々教会での日常生活が楽しくなりました。今思うと母が私に蒔いてくれたキリストの種は、年齢を重ねてから結実したような感じが致します。「母が私にくれた大いなる遺産だな」と心から思っています。

私は長いこと医療に従事しておりまして、色々な方達の死を見つめて参りました。それで私も今一人暮らしで頼る人も余りないのですが、教会に来る前はこの先どうしたものだろうか、生きていくことは別にどうと言う事はないし、死を恐れることもないのですが、死に至るプロセスが問題なのですね。痛みとか苦痛とか、それから様々なマイナスの面については、それを振り切って行く力は私には無いのです。それでどうしたらこう言う不安を乗り越えることができるかと常々考えておりました。

教会に足を踏み入れるようになってからは、そう言う悩みは一切消えてしまったのです。本当に楽天的になってしまっていて、神様は私の傍にいて私を導いて下さるから何も心配することはないと言う感じで、何も心配することがなくて本当に楽天的になってしまいました。どうしたものだろうかと私も不思議に思います。神様が支えて下さって

いるのだと言うことをつくづく感じております。

私も今まで悪いことを沢山してきました。意識しないで悪いことをしたことも有りますし、意識して悪いことをしたことも有ります。それらについて余り悔い改めることも無かったのですが、教会に来るようになってからは、何かひとりで悔い改めが始まってしまったのです。そうしましたら次から次へと昔の罪が思い出されまして、そのたびにささやかな祈りを捧げて罪の許しを請うています。本当に悪かったなと周りの人達に非常に迷惑を掛けて、それでも周りが赦してくれたので、何とか生きてこれたと感じております。

神様は愛すること、人を愛すること、愛と言う言葉は日常茶飯的に使われているのですが、事に当たって本当に愛すると言う事はと言う事なのだろうかと思い悩む時が有ります。愛の形と言うのをどうやって受け止めて良いのかどうやって実行して良いのか、そう言う事で思い悩む事が有ります。私は大体薄情な人間なのだと自省しているのですが、物事にぶつかった時に咄嗟の行動がどうも自己中心的になってしまいます。それはすごく悲しい事だと思っております。でもこれから神様の力によって神様が常に私の傍に歩み寄って下さいますので、その指示に従って御霊の働きによりまして、これからも生きて行きたいと思っております。

私は痛みに対して大変自制力がない人間でして、今は医学が発達しまして苦しみに耐えることが無くなりました。除痛と言うことで昔は麻薬を余り使わせなかった。1日に3回までとか4回までとか制約が有りまして、どんなに痛くても、揉んだり摩ったりで我慢させたのですが、今は無制限に鎮痛剤を使ってくれますので、私の悩みが少しは解消しているのですが、やはり人に迷惑を掛けずに最期を迎えたいなと思っております。これからも主の導きに歩ませていただき、善き人生の幕を閉じたいと思っております。

(2016年6月4日(土)の「証しと賛美の集い」における証しより。)

ニュージーランド留学記

千葉キリスト教会 土屋 輝昌

私は、昨年(2015年)の3月で38年間の公務員生活を定年退職しました。そして、かねてから計画していた一年間に亘るニュージーランド単身英語留学を実行に移しました。今から7年前の55歳の時、定年退職後の生き方について考え始めました。当時、英語教育に力を入れていた高校に勤務していた関係で、英語に興味を持ったこと事が大きく影響していると思います。なぜ、定年退職後の英語留学なのかと問われても、うまく説明できませんが、しいてあげれば2019年のラグビーワールドカップと2020年のオリンピックのボランティアとして役に立ちたいということをニュージーランドでは話していました。でも、本当のことを言うと、私は、自分自身の可能性を試してみたかったのです。もっと具体的に言うと、生きている実感を強く感じたかったからだと思います。

そして昨年(2015年)の6月6日に日本を出発し、今年(2016年)の5月29日に帰国しました。ニュージーランドでは、ホームステイで午前中は語学学校に通い、午後は図書館に通う生活でしたが、最初の一カ月で大きな壁が立ち塞がりました。英会話のスピードが速く全くといっていいほど聴き取れませんでした。聴けないから話せないという悪循環に陥り、塞ぎ込む毎日を送りました。この環境を変えるには、自分の考え方をもっと前向きにするしかありませんでした。

私が8か月滞在した町は、人口四千人程の小さな

町ですが、幸いにも、教会は7つ程ありました。そして、後の4か月滞在した町には、幸運にもセブンスデイドベンチストの教会がありました。私は、最初の町では、毎週日曜日に礼拝に行き、少しずつ友達もできてきました。そこで、いつも神様にお祈りをして讃美歌を歌い、心を新たにしていって、また一週間継続していくという生活を送りました。

そこで私は、神のパワーを感じることができ、本当に救われました。私は、いかに日本での信仰生活がいかげんであったのかを思い知らされました。さらに、この留学は神の導きによりニュージーランドに来ているということを強く感じる日々でもありました。

私は、毎日、マルコによる福音書12章11節「これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。」という聖句を自然と思い浮かべていました。なぜなら、私の60歳すぎた回転の悪い頭では、若い人との英語授業は、屈辱の連続でした。そして、なぜ、こんな辛い英語勉強を一人で続けているのだろうと思っていました。

帰国して最後に思うことは、この英語留学で一番の収穫は、英語力の向上ではなく支えていただいた神との交わりだったと確信しています。そして、これからもこの気持ちを忘れずに生きていこうと思います。



ニュージーランドの美しい夕焼け



留学中日本から来た奥様と

「ビジターズ・デイ」記

イエス・キリストの謙遜を学ぶ「洗足式」に参加いただきました

千葉キリスト教会 安息日学校長 渡邊 邦男

セブンスデイ・アドベンチスト千葉キリスト教会では、毎年春に「ビジターズデイ」という催しを行っています。これは、信徒を対象とするよりも日頃教会に来られていない方々、つまり信徒以外のゲストの方々を対象とする礼拝やプログラムを開催して、教会の活動の一端にふれていただくことを目的としています。

今回は、6月18日（土）に開催されましたが、今回の催しについてこの紙面を通してキリスト教の持つ「謙遜」について少し考えてみたいと思います。

私たちプロテスタントの教会で行われる礼拝は、宗教的儀式に基づいておこなわれる礼拝という側面をあまり多くは持っていません。礼拝の中心は、賛美と説教に置かれています。

賛美は、神を褒め称えるということが中心であり、説教は聖書全体から説教者がテーマを設定し、説教を組み立て、これを神の言葉として会衆に語りかけます。

さて、今回の「ビジターズデイ」では、あまり多くは無いキリスト教の宗教的儀式の中で「洗足・聖餐式」を行いました。これは、洗礼式（バプテスマ式）に並んで大切な宗教儀式ですが、このような儀式を信徒以外の方が経験することは極めて少ないのではないのでしょうか。

「洗足・聖餐式」の内の「洗足式」とは、イエス・キリストが最後の晩餐の時に、ご自身が弟子たちの足を洗って、こう言われたことから始まりました。＃

「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならぬ。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」

イエス・キリストは神の子でありながら、人間の体を取り、十字架につかれて私たちに救いの道を開いた方ですから、本来は弟子たちが身のまわりをお世話して、その足を洗うのが人間社会では普通の考え方です。

しかし、キリストはそのようなことを人間に求めず、天国で偉くなりたいのなら仕える者となりなさいと教えておられます。

このように、キリスト教の教える「謙遜」は、究極の謙遜であり、奉仕者となりなさいと教えています。

（聖餐式については次回お知らせいたします）



コスモス

共に食事をする喜びの恵み「採食料理講習会」

千葉キリスト教会 女性部・家庭部 丸山 敦子

女性部、家庭会を中心に教会員や教会員以外の多数のご奉仕者のおかげで、この菜食料理講習会も丸四年を迎えようとしています。最初から携わった者の一人として参加者の皆さまのご奉仕には心から感謝しています。特に未信者の方のおもてなしの心使いには見習う点が多く、やさしさが満ち溢れ、驚きと感謝で一杯です。

私の好きな聖書の言葉に

「見よ、兄弟が和合して共にあるのはいかに美しく楽しいことであろう。」

(詩編133:1口語訳)

という言葉があります。人を創造した時、信者、未信者の隔てはなく、神の目からみたら共に和合していることは美しく、神にとって楽しいことなのではないでしょうか。

新約聖書の中でイエス様は弟子たちだけでなく色々な人と食事を共にしています。

取税人(当時最も忌み嫌われた職業)ザカイや女性ではマルタとマリヤが有名です。

又、イエス様は定期的にペトロの家に行き、ペトロのお母さんや近所の方、イエス様に会いに来た人たちと集まり、そこで祈りと賛美をし、食事

を共にしていたのです。

この光景は私には菜食料理に集まっている方々の姿と重なるのです。お祈りと賛美で始まり天地創造の神が良しとしてくれた地の産物を使い美味しい食事を作り、皆で食する。デザートを持って来て下さる方、季節の草花を持ってきて食卓に季節感と色を足して下さる方。一人一人がその場を楽しくするための工夫をしています。男性の参加も増え、休みの日には子供たちも参加し、そこは一つの大きな家族の交わりになっています。その姿こそ神が美しいと思い、楽しいと言って下さる姿ではないでしょうか。

7月の献立は野菜ちらし寿司、こんにゃくのピリ辛炒め、レタスとアボガドのカクテルソースサラダ、味噌汁、メイン料理は、茄子のグルテンバーガー詰め。

【茄子のグルテンバーガー詰めメニュー】

茄子の中身をくり抜き、その中にくり抜いた茄子、玉ねぎ、グルテンバーガーを混ぜ合わせ、舟形になった茄子に詰め、丁寧に焼けば出来上がり！

余った茄子も味噌汁の具に。無駄なく簡単に色鮮やかな豪華ランチコースのできあがり。



7月4日(月)の「採食料理講習会」の写真

私を拾い上げてくださる神様

千葉キリスト教会 畠山 菜穂

素晴らしい讃美歌を有難うございました。すごく今まで緊張していたんですが、今の讃美歌を聴いて少しだけ心が落ち着きました。ここに立って証しをさせて頂くのは今回で3回目位になるのですけれども、毎回、用意した原稿をただ読んでいるだけのような作文を読んでいる様な、いつもそう言う自分に満足していなかったもので、今回は出来るだけ自分の言葉で、皆さんの表情を見ながら話したいと思いますので、よろしくお願いします。

前回話した事と少し重複するのですが、今回は磯部先生ご夫妻とか渡邊睦子さんとか新しい方も何人かいらっしやるので、これまでの自分の幼少の頃とか、バプテスマを受けるまで何故時間が掛ったのかを簡単にご説明をしようと思っております。私は、ご存知かと思うのですが当教会の長老をしています金田寛子の娘です。物心がついた時から教会に母と共に来ていたので、小さい時からいやと言う程、子供讃美歌とかクリスマス会とか子供の話とかで聖書の話とか子供のころから良く知っています。ただ、バプテスマを受けたのは30代半ばになったところで、何故そこまでこの恵まれた環境に居ながら、バプテスマを受けなかったのかと言う事を簡単にご説明致します。私は光風台三育小学校を実は卒業しておりまして、やはり信者さんのお子さん達ばかり、ご一緒させて頂いたのですが、当時の私は今のように皆さんの前で話せるような子供ではなく、勉強も苦手で運動も出来なくて、いわゆるちょっと落ちこぼれのような子供だったので、小学校の頃は入学当時から6年間に渡るいじめを受けました。そして友達も一人もいなかったのです。遠足でもお弁当を一人で食べて、お友達もいなかったですし、上履きに画鋲が刺さっていて、足に刺さったりとか、そう言うような辛い子供時代を過ごしました。信者さんのお子さん方がいじめをすることが最初はすごく信じられなかったもので、やはり神様は本当にいるのだろうかと思って、長い間神様を離れて、それどころか人間不信になりまして人生に絶望して、教会も神様も長い間離れていたんです。

でも神様は、私を逃がさないと言うか、見放さないで度々私にいろんな場面で試練を与えて、30代半ばになってやっとバプテスマを受けて、今に至る訳です。4年前位にサンセットバイブルカフェと言う、当時千葉教会の牧師先生は東海林先生でしたが、その先生と二人で最初に立ち上げたと言うか、礼拝よりは少

しカジュアルな、一般の方も気軽に参加して頂けるような場所を作ろうと言う事で最初に立ち上げたのですが、正直その当初は私も飲食店の仕事をやっていまして時間も無かったですし、土曜日は大抵疲れていたもので、出来ればやりたくないと言う思いが先にあって、ちょっといやいや引き受けてやっていたのです。そんな中で牧師先生も変わりまして、小林先生ご夫妻になったのですけれども、その時に私は運命的な出会いをしまして、ある一人の女の子と出会ったのですが、その女の子が私の人生や今までの価値観をここまで変えて下さって、本当にサンセットカフェをする意義を知ることが出来ました。

今からそれをお話ししようと思います。当時4年前になりますが、丁度今位の初夏にサンセットカフェの準備をしていたら一人の女の子がやって来て、当時は小学校6年生、家の息子と同じ歳なのですが、女の子がご家族といらっしやったのです。その女の子のお名前は杉田みのりちゃんと言います。その女の子は三育小学校、なんと私が卒業したあのいじめられた小学校の6年生の女の子だったのです。

その日はお父さんとお母さんの3人でサンセットカフェにいらしたのですが、その子のお母さんが末期のガンでした。その日は当時牧師夫人の園美さんからサンセットカフェの準備をしている最中に、「お母さんの病気の事は皆さんに伏せておいてね」と言われたので皆さんと同じように料理を振る舞い、同じように接していたのです。やはりガンだったのでがりがりに痩せ細って、髪も多分抜けていたのでしょう帽子をかぶっていらっしやったんですが、皆さんと私達が作った料理を少しですがお召し上がりになって、私が入れたコーヒーを少しですが美味しそうに頂いて下さって、その日は丁寧に礼をしてお帰って頂きました。

その年の秋にお母さんはガンで亡くなりました。その時、園美さんから聞いたのは、元気になったらもう一度サンセットカフェに入れてくれたコーヒーを飲めるように元気になると言って下さいました。私は今までいい加減な気持ちでやりたくないと言う気持ちでコーヒーを入れたり、頼まれたからいやいや料理を作っていたのですが、そんな風に思ってた方がその中にいらっしやって、そこから私の価値観は変わり始めました。

【7ページに続く】



その年、杉田みのりちゃんとだいぶ仲良くなったと言ったのですが、彼女からお手紙をもらいまして、小さいお手紙には「三育小学校のクリスマス会に来て下さい」と言うお手紙が有ったので、私はあの三育小学校は自分にとって行きたくない場所で、もう二度と思い出したくない場所なんです。そこに来て下さいと言う手紙が書いて有りました。でも彼女のお願だからなと思って、すごく悩んで三育小学校に行く、しかもイベントに行くんだと思ってお祈りをしてすごく悩んだのですが、やはり意を決して神様も多分守って下さるだろうと思って、勇気を振り絞って蘇我で開催されたのですが市民プラザの方へ足を運びました。その時は小林先生の奥様が当時教員をしていらしたので、ご夫妻にお会いして挨拶をしました。その時に私が見た光景というのは凄く驚いた光景なのですが、お母さんをガンで亡くしたばかりのみのりちゃんが精一杯無理やり笑顔を作って、精一杯の声でクリスマスの讃美歌を皆と一緒に同じように一生懸命歌う姿を私は目の当たりにして、今まで自分が小学校の時にいじめられたことを苦にして恨んで過去にいじめていたことにいろんなことに自分に甘えていた事にすごく思い知らされて打ちひしがれて、今までの自分を本当に反省しました。彼女のお母さんを亡くした痛みに比べたら私のたかだか6年間小学校の頃にいじめを受けて、別に何か病気をしたわけでもなく、肉親を亡くしたわけでもない自分が本当にそんなことでずーっと学校を恨んでいる必要なんかないじゃないかと思いました。

その日は本当に彼女の一生懸命歌う姿を見て感動して、会場を後にするつもりでしたが、その時に出口付近にみのりちゃんが募金箱を持って立っていました。「今日は良かったよ」と言って丁寧に挨拶をして帰ろうとしたら、また彼女が小さい手紙をくれました。今度は何だろうと思ったのです。そうしたらその手紙の中に今度三育小学校でバプテスマを受けるので三育小学校に来て下さいと言う内容の手紙が書いてあって、これは本当に驚いたのですが、私が25年以上も避け続けていた場所で、できれば思い出したい場所だったのです。もう本当にあの学校に近付くだけで、当時ウサギ小屋に閉じ込められたことがあるのですが、そのことを多分思い出したりするだろうなと思って、私は果たしてあの場所へ行けるのだろうか最初と思ったのですが、みのりちゃんがそこでバプテスマを受ける、そして亡くなったお母さんに再会するためと言う思いが伝わったのです。なのでどちらを選択するか本当に悩んで悩んでお祈りをして、意を決して、あの三育小学校に行くことにしました。でもどうやって行こうと思って、一人で

あの場所に行くのか、それとも誰かを誘って行くのか、母を誘う訳にはいかないしと思って、多分こちらに立っているだろうと思ってスケジュールの都合とかも有ると思ったのですごく悩んでいたら、やはり神様はちゃんと道を用意して下さい、何とバプテスマの司式をするのは小林先生だったのです。しかも小林先生の奥様の園美さんが「我が家の車で一緒に行きましょう」と言ってくれたのです。

都賀駅で待ち合わせをして、息子さんの玲音君と小林ご夫妻と一緒に車に乗って光風台まで行っただけなのですが、その道中は本当に私も25年間避けていた場所だったのでそう言う緊張を察してか、息子の玲音君まで私に話をしてくれていたのに、ただ相槌を打っていただけで多分話は聞いていなかったと思います。今にして見ればとても失礼なのですが、何と25年間行かなかった光風台三育小学校に到着して、やはり嫌な記憶は蘇ります。本当に動悸がして来てそこに降りただけで、ちょっと吐き気に近いような緊張がこみ上げてきたのですが、それ以上にみのりちゃんがバプテスマをする姿勢がとても神々しく見えて、そちらの方に集中して、私も気が付いてみると過去のトラウマとか、そう言うのはもう気が付いたら乗り越えていて、一緒に三育小学校の皆さんや先生たちとみのりちゃんのバプテスマを祝福していたのです。この私が本当に自分でも信じられなかったです。

本当に神様は私の事を、神様から逃げても逃げても私を見つけ出して、そして長い間、憎んでいた苦しみから神様は私を拾い上げて下さいました。そしてサンセットカフェも本当に私を必要として下さる方がいらっしゃる言う事を知った時でもありました。それから気持ちを改めて、入れるコーヒー一杯一杯にも思いを込めてやっています。最後に私が選んだ聖句があるのですが、お読みしたいと思います。

ヨハネによる福音書15章16節

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。

あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと。

またわたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと。

わたしがあなたを任命したのである。

(2016年6月4日(土)の「証しと賛美の集い」における証しより。)

「子供と話す」と「子供に話す」の違いが分かりますか？

—「子育て支援セミナー」から学ぶ—

千葉キリスト教会 女性部・家庭部 Y・H

7月16日(土)午後1:30より講師の林亮先生をお迎えし、「子供と話す、子供に話す」というテーマでご講演をいただきました。

日頃、私たちは子供と接する際に、子供と話しているのか、それとも子供に話しているのかを問われました。子供が親に伝えたいことをしっかりと受け止める余裕が必要であることを改めて知ることができました。

また先生は、子供が幼少期(生後8か月頃)までに母親とスキンシップをどれほどしたかにより人間形成がなされるというお話をしてくださいました。具体的なその方法はお話の中では示されませんでした。が、仕事をしている私にとってはかなり衝撃的な内容でしたが、スキンシップはこれからでも子育てをしていく中で実行可能であることを自分に言い聞かせ実践していく覚悟といたしました。

先生の講義のなかではあいまいな観念になりがちなしつけという言葉も、自制できる子供に育てることや、子育ての目標は自立であり、そのこともいろいろな事例により説明してくださいました。

自分がどれほど子育てをきちんとしていないのかを責められているようで一人ぼっちになったかのようなつらいセミナーでしたが、先輩ママが教えてくれました。イエス様はいつも私たちに「どうしてほしいのか」と聞いてくださっているのだと。ひとりで子育ての難しさに挫折しそうになっても神様に相談することができると思うことができました。

性格は変えられるのかなどの興味深い質疑応答の後、講演は終了いたしました。が、先生が講演後も個別に相談に応じてくださっており、そのお姿が印象的でした。



柿



彼岸花

楽しかった「夏期聖書学校(VBS)」

千葉キリスト教会 安息日学校副校長 水野 綾子

今年のVBSは、1日目は日帰り、2日目に教会に宿泊の1泊3日行われ、教会の子ども達、10名の参加となりました。

1日目は聖書の学びの後、空ビンにカラフルなタイルをボンドで貼る工作をしました。真剣な表情で取り組む子ども達の作品は、それぞれの個性が光る力作になりました。

午後には、デザートを各自トッピングし、美味しいパフェを食べました。

2日目は安息日学校&礼拝後、教会員の皆さんにもご協力を頂いたペットボトルのおかげで、それぞれのいかだを作製する事が出来ました。アドバイスをもらいながら、考え、工夫し、大人の力もちょっぴり借りながら、それぞれの形に仕上げました。

そして、夕方からは夏祭りに参加し、楽しいひと時を過ごしました。夜は食堂にテントを張って、気分はキャンプ!のつもりで、その中で寝ました。

3日目は、早起きして千葉ポートタワーの海辺へ、昨日のいかだが浮かぶのか、ウキウキワクワクしながら、いざ海へ! 「浮いた〜!!」の歓声と共に、「冷たい!!」

早朝の為、水温が上がっていないにもかかわらず、元気に楽しそうに遊ぶ子ども達でした。

たくさん遊んだ後は、教会に戻り、美味しい美味しいカレーライスを頂き、スイカも頂き、お腹もいっぱい!楽しい3日間で思い出もいっぱい!のVBSになりました。

VBSにご協力下さった先生&皆さん、声をかけて下さった皆さん、温かく見守って下さった皆さん、祈って下さった皆さん、本当にありがとうございました



カラフルなタイルを空ビンに貼る工作。個性の光る力作が出来上がりました。



早起きしてポートタワーの海辺へ。

昨日作ったペットボトルのいかだ浮かぶかな!

「浮いた!!」バンザーイ。



盛り上がりました「夏祭りバイブルカフェ」

千葉キリスト教会 山本 一

去る7月23日（土）、「夏祭りバイブルカフェ」が催されました。

毎月第4土曜日の夕方5時半より千葉教会集会室で行われています、サンセットバイブルカフェの「夏祭りバージョン」として、今年で4回目の開催となりました。

教会の建物の1階にはシャローム若葉デイサービスセンターがありますが、教会と共有しています1階のホール、ピロティを使用して行いました。

はじめにサンセット礼拝（夕礼拝）。ホールにお集まりいただき、讃美歌を歌い、祈り、千葉教会の磯部牧師より聖書のメッセージをお聞きしました。

礼拝の後、すぐに「夏祭り」へと移りました。ピロティには、リンケッツ（三育フーズ製の植物性蛋白で作られたウインナー）や野菜をはさんだホットドック、竹を加工した流しそうめん、かき氷、ポップコーン、瓶ラムネ、三育フーズのジュース、焼きマシュマロなどの夜店（？、すべて無料ですが。）が出店され、皆さんにお楽しみいただきました。また、お子さんから大人まで遊んでいただけるように輪投げ、ストラックアウト、パターゴルフの遊

技場も用意されました。

また7時から恒例のビンゴ大会。1等はすいか、2等は三育フーズのジュース、3等は三育フーズの菓子詰め合わせ、以下沢山の景品を目指してビンゴを楽しみました。

今年は千葉教会の町内会や、近隣の町内会の夏祭りとの日程が重なってしまい、来られる方が少ないのではないかと心配しましたが、例年以上の約120名の方がおいでくださいました。サンセットバイブルカフェにいつもおいでくださる方、教会の近隣の方、毎年楽しみにしてくださりおいでになった方、近隣のお祭りをはしごしてくださる方、シャローム若葉の職員家族、等々。特に今年は30名弱のお子さんが来てくださって、楽しく夏祭りを催すことが出来ました。また準備や器具の借用においては、シャローム若葉の職員や職員の町内会、近隣の高麗酒店さんのご協力をいただけたことは感謝です。このような楽しいプログラムに多くの方がおいでくださり、交わりを通して教会を、イエス様を知っていただける機会となればと思います。



恒例の「ビンゴ」大会に盛り上がっています



名物の流しそうめん。皆さん「おいしい」と食べてます。

SDA千葉キリスト教会の教会堂のデッサンと地図です

—皆様のお越しをお待ちしています—



9月、10月、11月の行事

◇ 敬老お祝い会

☆日時:9月3日(土)13:00～15:00 ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆幼子から高齢者の方々まで集う楽しい敬老お祝い会です。子供たちのお祝いメッセージ、敬老お祝い対象者の名前を当てるクイズ「私は誰でしょう」、教会聖歌隊・青年部の賛美などでお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ 伝道講演会「闇から光へ」

☆日時:11月5日(土) 午後1時30分～ ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆講演題:「闇から光へ」

☆講師:磯部 豊喜 千葉キリスト教会牧師

☆当日の礼拝:当日は午前11:00～の礼拝では「闇を消すもの」と題して磯部牧師の説教があります。

☆伝道講演会にご参加頂き、「イエス・キリストの恵み、神の愛(テサロニケの信徒への手紙二13章13節)」に出会ってください。

毎月の定期集会

◇ 食料料理講習会

☆日時:毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆場所:千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費:500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時:毎月、第二水曜日に開催します。午前10時30分～11時30分

☆場所:千葉キリスト教会集会室 ☆講師:千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時:毎月第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆場所:千葉キリスト教会 集会室

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができます。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校(毎週土曜日)

☆賛美礼拝:午前9:15～9:25

☆聖書の学び:午前9:25～10:40

安息日礼拝(毎週土曜日)

☆千葉キリスト教会:午前11:00～12:00

☆シャローム若葉虹の家:午前9:30～10:10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」第4号2016年秋号をお届けします。号を重ねる毎に、SDA千葉キリスト教会を、より深く知って頂けたら幸いです。第4号はページに余裕ができましたので11ページに、千葉教会の教会堂のデッサンと地図を載せました。ぜひお越しください。教会堂のデッサンはWさんの作品です。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闊 渡邊 治子

綿引 秀子